

## 【参考文献】

本文中の明記は原文・原典を引用したものに限り、著書・雑誌などで公開され定説・通説として供用されているものは原則として掲出していない。ここでも主に市民対象を中心に、最小限の提示にとどめた。

(史料)

『大日本史料』第九編～第十二編

中村孝也『徳川家康文書の研究』上巻・中巻・下巻之一・同二・拾遺集(日本学術振興会、一九五六～七一年)

徳川義宣『新修徳川家康文書の研究』・『同』第二輯(徳川黎明会、一九八三・二〇〇六年)

『朝野旧聞哀藁』1～19(汲古書院、一九八二～八四年)

『家忠日記』(増補統史料大成19、臨川書店、一九七九年)

『当代記』(史籍雑纂第二、統群書類従刊行会、一九七四年)

『松平記』(内閣文庫写本、三三〇七八号)

『三河物語』(日本思想体系26、岩波書店、一九七四年)

『武徳編年集成』上巻・下巻(名著出版、一九七六年)

『徳川家康と其周囲』岡崎市史別巻、上巻・中巻・下巻(復刻版、名著出版、一九七二年)

『関原軍記大成』全四巻(国史研究会、一九一六年)

『日本戦史関原役』本編、補伝、文書、附表・附図(博聞社、一九九三年)

藤井治左衛門編著『関ヶ原合戦史料集』(新人物往来社、一九七九年)

『吉川家譜』(東京大学史料編纂所蔵)

『新訂黒田家譜』第一巻(文献出版、一九八三年)

『石川正西聞見集』(埼玉県立図書館、一九六八年)

『改訂史籍集覧』第十五冊(近藤活版所、一九〇二年)、「細川忠興軍功記」「福島太夫殿御事」「藤堂家覚書」「脇坂家伝記」

『改訂史籍集覧』第廿六冊(近藤活版所、一九〇二年)、「関ヶ原始末記」「慶長年中卜齋記」

『静岡県史』資料編7～10(静岡県、一九九四～九六年)

『愛知県史』資料編11～13(愛知県、二〇〇三～一一年)

『山梨県史』資料編4・5(山梨県、一九九九・二〇〇五年)

『山口県史』史料編中世4(山口県、二〇〇八年)

(著書・論文)

秋澤 繁「慶長一〇年徳川御前帳について(一)・(二)」、『海南史学』三〇・三十一号、一九九二・九三年

跡部 信「秀吉独裁制の権力構造」、『大阪城天守閣紀要』三七号、二〇〇九年

和泉 清司「幕府の地域支配と代官」(同成社、二〇〇一年)

磯貝 正義「武田信玄」(新人物往来社、一九七〇年)

今井林太郎「石田三成」(吉川弘文館、一九六一年)

煎本 増夫「幕藩体制成立史の研究」(雄山閣、一九七九年)

岩澤 愿彦「羽柴秀吉と小牧・長久手の戦い」、『愛知県史研究』四号、二〇〇〇年

小笠原春香「武田氏の外交と戦争―武田・徳川同盟と足利義昭―」(平山・丸島編『戦国大名武田氏の権力と支配』岩田書院、二〇〇八年)

同 「駿遠国境における徳川・武田間の攻防」(久保田昌希編『松平家忠日記と戦国社会』岩田書院、二〇一一年)

奥野 高広「武田信玄の西上作戦」、『日本歴史』一九八号、一九六四年)

小和田哲男「三方ヶ原の戦い―武田信玄上洛への大戦略―」(学習研究社、一九八九年)

同 「関ヶ原から大坂の陣へ」(新人物往来社、一九九九年)

同 「日本を変えたしずおか合戦」(財団法人静岡県文化財団、二〇一一年)

笠谷和比古「関ヶ原合戦―家康の戦略と幕藩体制―」(講談社、一九九四年)

同 「関ヶ原合戦と近世の国政」(思文閣出版、二〇〇〇年)

同 「戦争の日本史17関ヶ原合戦と大坂の陣」(吉川弘文館、二〇〇七年)

鴨川 達夫「武田信玄と勝頼―文書にみる戦国大名の実像―」(岩波書店、二〇〇七年)

同 「元亀年間の武田信玄―『打倒信長』までの歩み―」(『東京大学史料編纂所研究紀要』二二号、二〇一二年)

北島 正元「江戸幕府の権力構造」(岩波書店、一九六四年)

黒田 基樹「戦国期東国の大名と国衆」(岩田書院、二〇〇一年)、第四・十一章

五野井隆史「徳川初期キリシタン史研究」(吉川弘文館、一九八三年)、第二部

柴 裕之「永禄期における今川・松平両氏の戦争と室町將軍」、『地方史研究』三一五号、二〇〇五年)

同 「戦国大名武田氏の遠江・三河侵略再考」、『武田氏研究』三七号、二〇〇七年)

同 「長篠合戦再考―その政治的背景と展開―」(『織豊期研究』一二号、二〇一〇年)

柴辻 俊六「真田昌幸」(吉川弘文館、一九九六年)

- 同 『信玄の戦略―組織、合戦、領国経営―』（中央公論新社、二〇〇六年）
- 同 『戦国期武田氏領の地域支配』（岩田書院、二〇一三年）
- 下村 信博 「松平忠吉と関ヶ原の戦い」（名古屋博物館『研究紀要』三四巻、二〇一一年）
- 新行 紀一 「一向一揆の基礎構造」（吉川弘文館、一九七五年）
- 同 『新編岡崎市史』中世2（新編岡崎市史編さん委員会、一九八九年）、第四章
- 須藤 茂樹 「武田信玄の西上作戦再考」（『武田氏研究』三号、一九八八年）
- 曾根 勇二 『片桐且元』（吉川弘文館、二〇〇一年）
- 染谷 光廣 「武田信玄の西上作戦小考―新史料の信長と信玄の文書―」（『日本歴史』三六〇号、一九七八年）
- 白峰 旬 「慶長十一年の江戸城普請について」（『織豊期研究』二号、二〇〇〇年）
- 同 「新「関ヶ原合戦」論―定説を覆す史上最大の戦いの真実―」（新人物往来社、二〇一一年a）
- 同 「直江状についての書誌的考察」（『史学論叢』四一号、二〇一一年b）
- 同 「フィクションとしての小山評定―家康神話創出の一事例―」（『別府大学大学院紀要』一四号、二〇一二年a）
- 同 「慶長五年六月―九月における徳川家康の軍事行動について（その1）・（その2）・（その3）」（『別府大学紀要』五三号・『別府大学大学院紀要』一四号・『史学論叢』四二号、二〇一二年b）
- 高木 昭作 「江戸幕府の成立」（『岩波講座日本歴史9・近世1』岩波書店、一九七五年）
- 高柳 光寿 「戦国戦記三方原の戦い」（春秋社、一九五八年）
- 竹井 英文 「織豊政権と東国社会―「惣無事令」論を越えて―」（吉川弘文館、二〇一二年）
- 谷口 克広 「信長と家康―清須同盟の実体」（学研パブリッシング、二〇一二年）
- 谷口 央 「小牧長久手戦い前の徳川・羽柴氏の関係」（『人文学報』四四五号、二〇一一年）
- 圭室文夫編 『政界の導者天海・崇伝』（吉川弘文館、二〇〇四年）
- 服部 英雄 「河原ノ者・非人・秀吉」（山川出版社、二〇一二年）
- 平野 明夫 「徳川権力の形成と発展」（岩田書院、二〇〇六年）
- 平山 優 「武田信玄」（吉川弘文館、二〇〇六年）
- 同 「天正壬午の乱本能寺の変と東国戦国史」（学研パブリッシング、二〇一一年a）
- 同 「武田遺領をめぐる動乱と秀吉の野望―天正壬午の乱から小田原合戦まで―」（戎光祥出版、二〇一一年b）
- 藤井 讓治 「「惣無事令」はあれど「惣無事令」はなし」（『史林』九三巻三号、二〇一〇年）
- 同 「日本近世の歴史―天下人の時代」（吉川弘文館、二〇一一年）
- 藤木 久志 「豊臣平和令と戦国社会」（東京大学出版会、一九八五年）
- 藤野 保 「新訂幕藩体制氏の研究」（吉川弘文館、一九七五年）
- 藤田 達生 「日本近世国家成立史の研究」（校倉書房、二〇〇一年）
- 同 編 「小牧・長久手の戦いの構造―戦場論上」（岩田書院、二〇〇六年）
- 藤本 正行 「信長の戦国軍事学」（宝島社、一九九三年）
- 二本 謙一 「関ヶ原合戦―戦国のいちばん長い日―」（中央公論社、一九八二年）
- 堀 新 「日本中世の歴史7天下統一から鎖国へ」（吉川弘文館、二〇一〇年）
- 堀越 祐一 「豊臣『五大老』・『五奉行』についての再検討―その呼称に関して―」（『日本歴史』六五九号、二〇〇三年）
- 本多 隆成 「近世初期社会の基礎構造―東海地域における検証―」（吉川弘文館、一九八九年）
- 同 「初期徳川氏の農村支配」（吉川弘文館、二〇〇六年）
- 同 「近世東海地域史研究」（清文堂、二〇〇八年）
- 同 「定本徳川家康」（吉川弘文館、二〇一〇年）
- 同 「小山評定の再検討」（『織豊期研究』一四号、二〇一二年）
- 同 「武田信玄の遠江侵行経路―鴨川説をめぐって―」（『武田氏研究』四九号、二〇一三年）
- 松本長一郎 「慶長期の駿府城修築」（『地方史静岡』一一号、一九八三年）
- 三浦 俊明 「三河三奉行について―本多作左衛門を中心として―」（高柳光寿博士頌寿記念会編『戦乱と人物』吉川弘文館、一九六八年）
- 三鬼清一郎 「織豊期の国家と秩序」（青史出版、二〇一二年）
- 光成 準治 「関ヶ原前夜―西国大名たちの戦い―」（日本放送出版協会、二〇〇九年）
- 宮本 義己 「松平元康（徳川家康）の早道馬猷納―学説とその典拠の批判を通して―」（『大日光』七三号、二〇〇三年）
- 同 「徳川家康の豊臣政権運営―「秀吉遺言覚書」体制の分析を通して―」（『大日光』七四号、二〇〇四年）
- 村岡 幹生 「永祿三河一揆の展開過程―三河一向一揆を見直す―」（新行紀一編『戦国期の真宗と一向一揆』吉川弘文館、二〇一〇年）
- 山本 浩樹 「関ヶ原の戦いと中近世移行期の社会」（『国史学研究』三五号、二〇一二年）
- 吉田 洋子 「豊臣秀頼と朝廷」（『ヒストリア』一九六号、二〇〇五年）
- 渡邊 大門 「大坂落城 戦国終焉の舞台」（角川学芸出版、二〇一二年）
- 渡辺 世祐 「武田信玄の経緯と修養」（長野県更級郡聯合事務所更級郡教育会、一九二九年）